

 <p>開校明治七年 開校147年目</p>	<h1>宗岡小だより</h1> <p>学校教育目標 よく考える子 思いやりのある子 心も体も元気な子</p>	めざす学校像 「子供達一人一人の居場所があり、輝ける学校」 「安全・安心できれいな学校」	2月の生活目標 礼儀正しくしよう ・すすんであいさつをしよう ・丁寧な言葉遣いをしよう
		令和4年2月号 志木市立宗岡小学校 児童数 452名・学級数 18学級 住所 志木市中宗岡3-1-1 TEL 048-471-0307	
<p>基本理念「自分がすき 友だちがすき 町がすきな 宗小の子」</p>			

丁寧な言葉遣いは相手への気配り

校長 石田 賢一

3学期が始まって1か月が経ちましたが、新型コロナウイルスオミクロン株の感染が爆発的に増加しています。志木市においても昨年末は0人や1桁人だったのが、1月末には20人を超えるなど感染の拡大が止まりません。本校では、感染防止対策としてマスクの着用、手洗いの徹底、ソーシャルディスタンスの確保以外にも、児童本人または家族に風邪症状（発熱、咳、鼻水、喉の痛み等）が見られた場合は、登校を控えていただき、必ず医療機関で診察していただくことを徹底しております。ですので、兄弟姉妹関係では、兄に風邪症状があった場合は、弟妹が無症状であっても兄が医療機関で診察を受け、新型コロナウイルスではないと診断されるまでは兄弟姉妹全員の登校を控えていただいております。学校における大規模感染防止と教育活動の実施のための方策となりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

さて、2月の生活目標は「礼儀正しくしよう」であり、具体的な取組として「丁寧な言葉遣いをしよう」があります。

近年、若年層の言葉の乱れが指摘されていますが、これは言葉の乱れというよりは、私のような50代のおじさんには理解できない言葉を若者が発明して使っていることから、「自分には分からない若者言葉」＝「言葉が乱れている」と感じてしまうからだと思います。約1000年前に清少納言により執筆された『枕草子』の中ですでに、当時の若者の言葉の乱れを指摘する記述があるそうですから、ある一定の年齢層の人々が「若者言葉が乱れている」と感じるのは、日本の伝統かもしれません。

しかし、この「若者が発明した新しい言葉」以外に私が心配しているのは、日本全体で攻撃的な言葉が日常的にみられるようになってきていることです。ネットでは、その匿名性を利用して相手を傷つけたり、存在を否定したりする書き込みが見られます。また、オンラインゲームでは顔の見えない相手に対して攻撃的な言葉を使っています。これらの攻撃的な言葉を使っている本人は、それほど深く考えずに使っていて、言われた側が傷つくことに気づいていないのではないかと思います。

小学校や中学校では、保護者の方から「子供がオンラインゲームを始めてから言葉遣いが荒くなってしまいました。」という相談が多くあります。オンラインゲームでは、負けてしまったときや自分の思い通りにならなかったときに、自分の心情や感情を正直に対戦相手にぶつけてしまうそうです。その際には、相手の顔が見えないので、感情そのままの攻撃的な言葉を使いがちになります。子供達が画面で表示されているキャラクターは、実は自分と同じ人間がコントロールしていることを理解すれば、自然と言葉遣いも優しいものになると思います。もし、お子様がオンラインゲームをしていて言葉遣いが荒くなってしまっているときは、自分がその言葉を相手の人から言われたときの気持ちを考えさせていただきたいです。もし、その人が目の前にいたらそんな言葉遣いをするのかを聞いてください。

本校では、今年度から学校教育目標を「よく考える子 思いやりのある子 心も体も元気な子」としました。この中にある「思いやりのある子」とは、自分を律しつつ、他者を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性を持ち、自他の考えや意見の相違を肯定的に受け止め、協働することができる児童の育成を図っていくということです。丁寧な言葉遣いで話された人間は、「自分は大切にされている」と感じます。「自分は大切にされている」という感情を生む丁寧な言葉遣いは、自分と他者とを結ぶ重要なコミュニケーションツールとなります。これからの変化の激しい時代を生きていく子供達は、世界中の様々な人達と関わりを持つこととなります。その多種多様な人々とスムーズなコミュニケーションを図るために必要なものが丁寧な言葉遣いによる相手への気配りです。

本校においても、子供達一人一人が相手のことを思いやった言葉遣いができるようにしっかりと指導してまいります。ぜひ、ご家庭においても子供達の言葉遣いについて親子で話していただきますよう、お願いいたします。